

「幻の石橋」 指定文化財に向けて

「リブアーチ型石橋」の概要——

架設時期は19世紀後半の幕末と推定される。石材は、地元で産出され、高い強度を有する花崗岩を使っている。架設位置の川の状況に対応するため、今までに習得した土木技術等を参考にして、地元石工集団が、この地区独自のリブアーチ形式を考案し架設したと推測できる。

【参考資料】熊本大学名誉教授 山尾敏孝「嘉麻市桑野地区所在のリブアーチ型石橋の総合的評価と保存活用方針について」



▲嘉麻市桑野地区国道211号線「掛橋」橋下の遠賀川に架かる石橋

※現在、見学はできませんのでご了承ください。

専門家からの評価結果——

「桑野地区独自の石橋文化が、小規模ながら形成されていたことが判明し、県内の石橋文化に新たな評価を与える可能性を有した石橋である。」

また、「遠賀川上流域のリブアーチ型橋群の中で、唯一存在する石橋は、桑野地区の有する地理的、地質的条件が生み出した文化遺産であり、その独自性においても県内でもたいへん珍しく非常に価値ある文化遺産である」との評価をいただきました。



嘉麻市アウトドアシティ宣言！

嘉麻市アウトドアシティ宣言——

「地域の財産を未来に継承し、豊かに暮らせるまち」を実現するため、ヒュッケの概念を参考に、嘉麻市観光まちづくり協会などの関係機関と協力して、心地よい体験と時間の提供を可能にするアウトドアシティを目指すことを、ここに宣言します。 ※一部抜粋



ヒュッケとは
デンマーク語で
「居心地がいい空間」
「楽しい時間」



レアケ・リンド・イエンセンさん——

11月より産業振興課観光PR係にデンマークから国際交流員として着任されました。デンマークのライフスタイル「HYGGE（ヒュッケ）」を基調としたアウトドアによる観光まちづくりを推し進めていくため、国際交流員として3年間滞在し、活躍されます。